

株式会社博報堂 DY ホールディングス
2022 年 3 月期 通期 連結決算説明会 質疑応答集

2022 年 5 月 12 日（木） 16:00～17:00

説明者 :

代表取締役社長	水島 正幸
取締役副社長	矢嶋 弘毅
取締役専務執行役員	西岡 正紀
取締役専務執行役員	江花 昭彦
執行役員	禿河 毅

- ・ 23 年 3 月期は、中計に基づく基盤整備や活動費の回復により販管費が増加するとのことだが、詳細を教えてください。また、費用増は 23 年 3 月期のみに影響するのか、24 年 3 月期にも影響するのか。

23 年 3 月期の販管費全体では、前年から 270 億円程度増加する見通しである。そのうち 70 億円程度はのれん償却費を含む M&A によるものである。残り 200 億円のうち、中計に基づいた基盤整備のための戦略費用が 100 億円程度。戦略費の用途は、システム開発、新規事業開発や M&A への対応力強化、人材育成、労働環境の改善など。活動費も前年度からは増加するものの、20 年 3 月期の水準までは戻らないと考えている。また、テクノロジー新会社にて 100 名程度の採用を計画しているが、優秀な人材を採用するべく、今年から来年にかけて徐々に採用数が増えていくことを想定している。

- ・ 23 年 3 月期の販管費は、M&A の影響を除いて前年から 200 億円増加する計画とのことだが、使いきれの想定か。

人材採用やシステム開発は基本的に計画的に進めていく。

ただし、デジタル人材は採用競争が激しいため、状況は変化することは考えられる。その辺も考えながら進めていく。システム開発も進捗次第で計画にずれが生じる可能性はある。

また、経済環境に不透明感があるので、動向を注視しながら、利益確保のために費用コントロールを行うことも考えている。

- ・ 地政学リスクやインフレに伴い、広告主の出稿意欲に変化が出ているか。具体的な事例

があれば教えてほしい。

原油/原材料価格の高騰などにより、広告主もマーケティング戦略に悩んでいるが、出稿意欲に大きな変化が生じているという話は今のところ聞いていない。厳しい環境であった過去 2 年間からの巻き返しを計画している得意先も多いため、我々も状況に合わせたご提案をしていく。具体的な業界別の事例についてはお答えできる状況にない。

以 上